



岡山県内経済情勢報告

令和 8 年 1 月 29 日

財務省中国財務局

岡山財務事務所

本調査にかかるお問い合わせ先
財務省中国財務局岡山財務事務所
財務課長 上石
TEL (086) 223-1131 内線 411

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡

(注) 8年1月判断は、前回7年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、改善に向けた動きに一服感がみられる。

【各項目の判断】

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡
生産活動	緩やかに持ち直しつつある中、一部に弱さがみられる	緩やかに持ち直しつつある	➡
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	改善に向けた動きに一服感がみられる	➡

設備投資	7年度は前年度を上回る見込み	7年度は前年度を上回る見込み	➡
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は減益見込み	➡
企業の景況感	「下降」超幅が拡大している	「上昇」超に転じている	➡
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	➡
輸出	前年を下回っている	前年を下回っている	➡

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、商品価格の上昇により前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、節約志向が続く中、お手頃感のあるおにぎりなどが好調なことから前年を上回っている。家電大型専門店販売は、パソコンやエアコン需要が好調なことなどから前年を上回っている。ドラッグストア販売は、商品価格の上昇から買い控えがみられるものの、新規出店効果などにより前年を上回っている。ホームセンター販売は、物価高により節約志向が強まり来店客数が減少していることなどから前年を下回っている。乗用車販売は、前年を下回っている。

このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 生活防衛意識から、特に衣料品や化粧品などで買替頻度が減少している。また、消費者の節約志向が続く中、高単価商品の多い物産展が好調であるなど、消費するものと節約するものを選択しながら購入に至る「メリハリ消費」の流れは続いている。（百貨店）
- 食料品全般の価格上昇により、買上点数が減少する一方で、客単価は上昇している。（スーパー）
- 来店頻度を減らしつつ買上点数は減らさずに必要な支出を行う「計画的・メリハリ消費」にシフトしている中、引き続き、お手頃感のあるおにぎりなどが好調となっている。（コンビニエンスストア）
- 売上高は、既存店では、商品価格の上昇に伴い買い控えが強まっていることから前年をやや下回っているものの、全店では、新規出店効果により前年を上回っている。（ドラッグストア）
- 物価高による節約志向の強まりにより来店客数が減少している。消費者は、より安いものを購入しようとするマインドを強めており、購入先を選択する動きがみられている。（ホームセンター）
- 天候が崩れることなく、11月に3連休が2回あったほか、年末年始の休暇が長く、来店客数が増加したことから、お土産販売の売上が伸びた。商品価格が上昇する中、お土産販売の需要の高さは変わらない。（専門店）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械は、造船で豊富な受注残を抱え、自動車が足もとで増加していることから、増加している。化学は、需要が横ばいの中、定期修理明けの増産などもあって増加している。汎用・生産用・業務用機械は、需要が堅調に推移していることから増加している。電気機械は、需要が底堅く、概ね横ばいとなっている。鉄鋼は、船舶向けが堅調なことから、概ね横ばいとなっている。

このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- 過去に建造した船舶の更新や、環境対応のための新造船需要などにより豊富な受注残を抱えている。（造船）
- メーカーからの受注状況は好調。（自動車）
- 安価な海外産の流入や脱プラスティックの動きなどから国内外の需要は引き続き弱めに推移しているが、今期は、定期修理明けの増産などもあって、生産量は増加している。（化学）
- 需要是底堅く、生産量は概ね横ばいで推移している。（電気機械）
- 資材価格の高騰や人手不足などから、建設需要が低調となっており、建築向け鋼材の需要は伸び悩んでいるものの、船舶向け需要は堅調である。（鉄鋼）

■ 雇用情勢 「改善に向けた動きに一服感がみられる」

新規求人数が前年を下回り、有効求人倍率は高水準で推移しているものの低下傾向にある。企業の人手不足感は、法人企業景気予測調査（7年10-12月期）の従業員数判断BSIでみると、「不足気味」超が続いている。このように、雇用情勢は、改善に向けた動きに一服感がみられる。

- 物価高や最低賃金の引上げなどにより、介護施設や小売等で求人数を精査する動きや、インバウンド対応のため宿泊施設等で外国人採用を強化する動きが見られる。（職業紹介）
- 高年齢従業員の割合が高まる中、求人募集を行っているが、応募状況は芳しくなく、従業員の若返りが図れていない。（石油・石炭）

■ 設備投資 「7年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

- 製造業では、情報通信機械や鉄鋼などで増加見込みとなるものの、化学や繊維などで減少見込みとなっている。
- 非製造業では、不動産などで減少見込みとなるものの、金融・保険や小売などで増加見込みとなっている。

- 前年度は生産設備の増強投資を行ったが、今年度は維持更新のみとしている。（化学）
- 前年度は新工場を建設したが、今年度は通常投資としている。（繊維）
- 通常の維持更新に加え、新商品開発にかかる投資を行う。（情報通信機械）
- 通常の維持更新に加え、自動化・省力化に資する投資を行う。（鉄鋼）
- 建替等店舗の整備を行うほか、業務システムの更新や営業強化のためのシステムの導入や更新を予定している。（金融・保険）
- 既存の店舗の改装を行うほか、新規出店を行うとともに新規エリアを担当する新工場の建設を計画している。（小売）
- 前年度は耐震工事を行ったが、今年度は維持修繕を中心に実施している。（不動産）

■ 企業収益 「7年度は減益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

- 製造業では、食料品などで増益見込みとなるものの、化学や情報通信機械などで減益見込みとなっている。
- 非製造業では、運輸・郵便や建設などで増益見込みとなるものの、卸売や情報通信などで減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じている」（全産業）「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

- 企業の景況判断BSIは、「上昇」超に転じている。なお、翌期は「下降」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅が増加していることから、前年を上回っている。

■ 輸出 「前年を下回っている」

- 輸出は、品目別では、化学製品や鉄鋼などが減少していることから、前年を下回っている。なお、地域別では、アジアなどで前年を下回っている。

岡山県内経済情勢報告

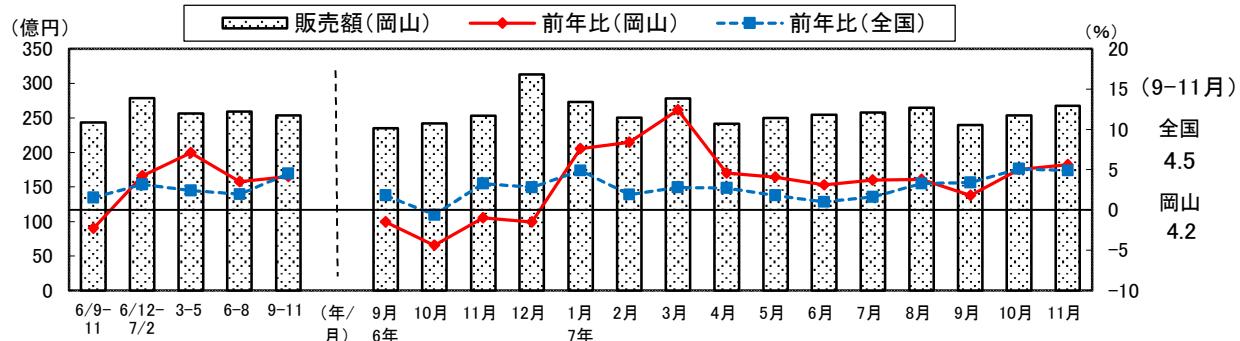
資料編

目	次	ページ
1. 個人消費	費	1
2. 生産活動	動	3
3. 雇用情勢	勢	4
4. 設備投資	資	5
5. 企業収益	益	5
6. 企業の景況感	感	5
7. 住宅建設	設	6
8. 輸出	出	6

※グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指標、倍率。

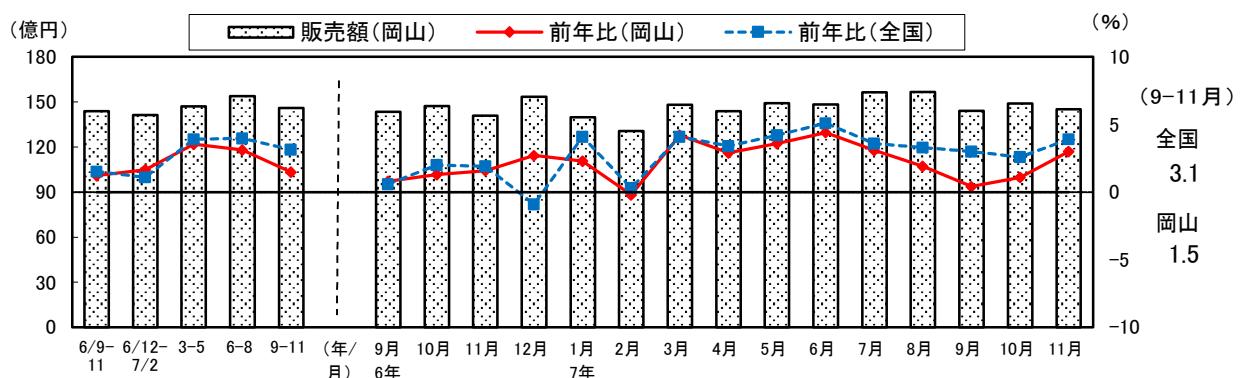
1.個人消費 緩やかに回復しつつある

(1)百貨店・スーパー販売額(全店舗:前年比) (注)(1)～(5)の各グラフの3か月毎の販売額は、1月あたりの平均



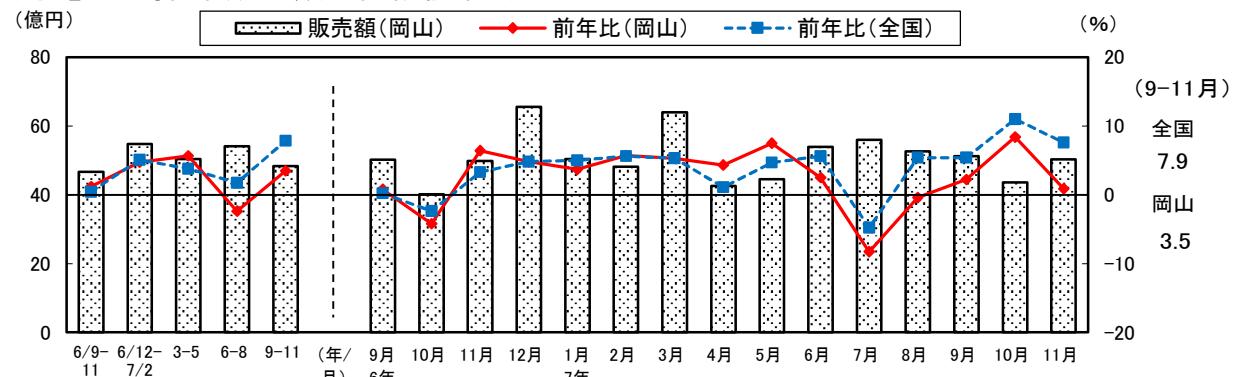
(資料出所:経済産業省、中国経済産業局)

(2)コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



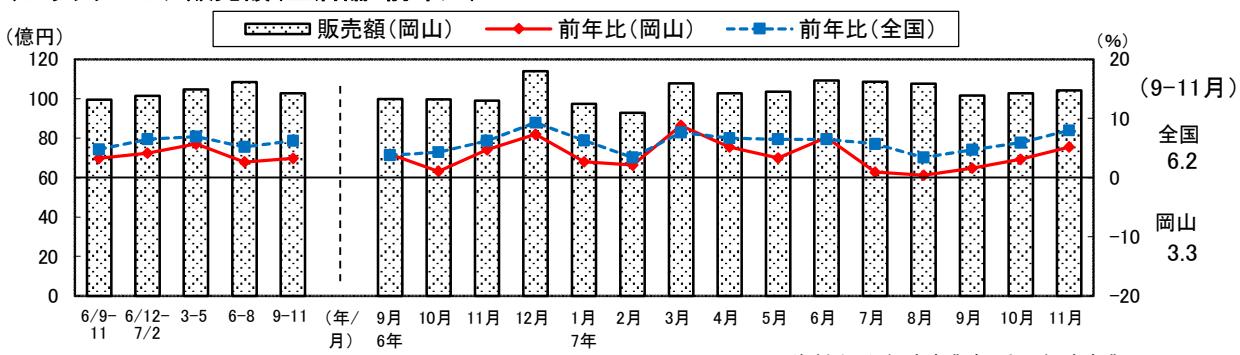
(資料出所:経済産業省、中国経済産業局)

(3)家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



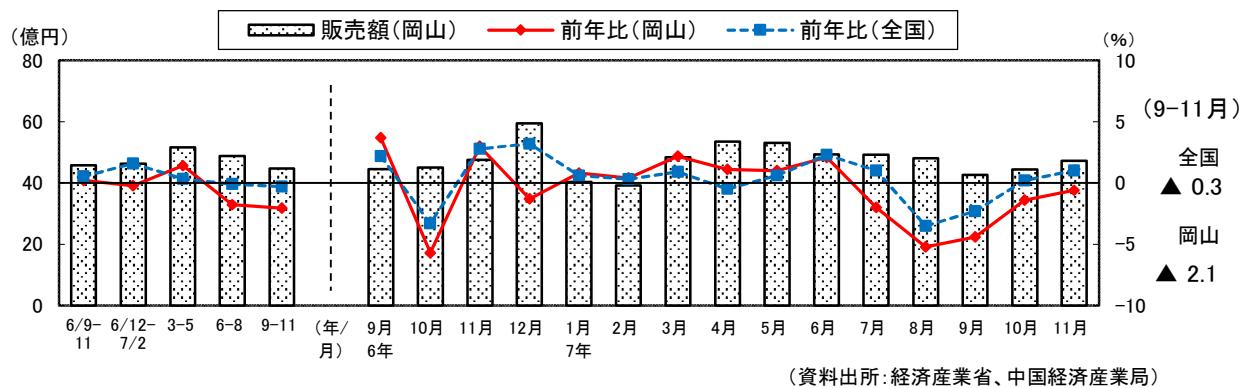
(資料出所:経済産業省、中国経済産業局)

(4)ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)

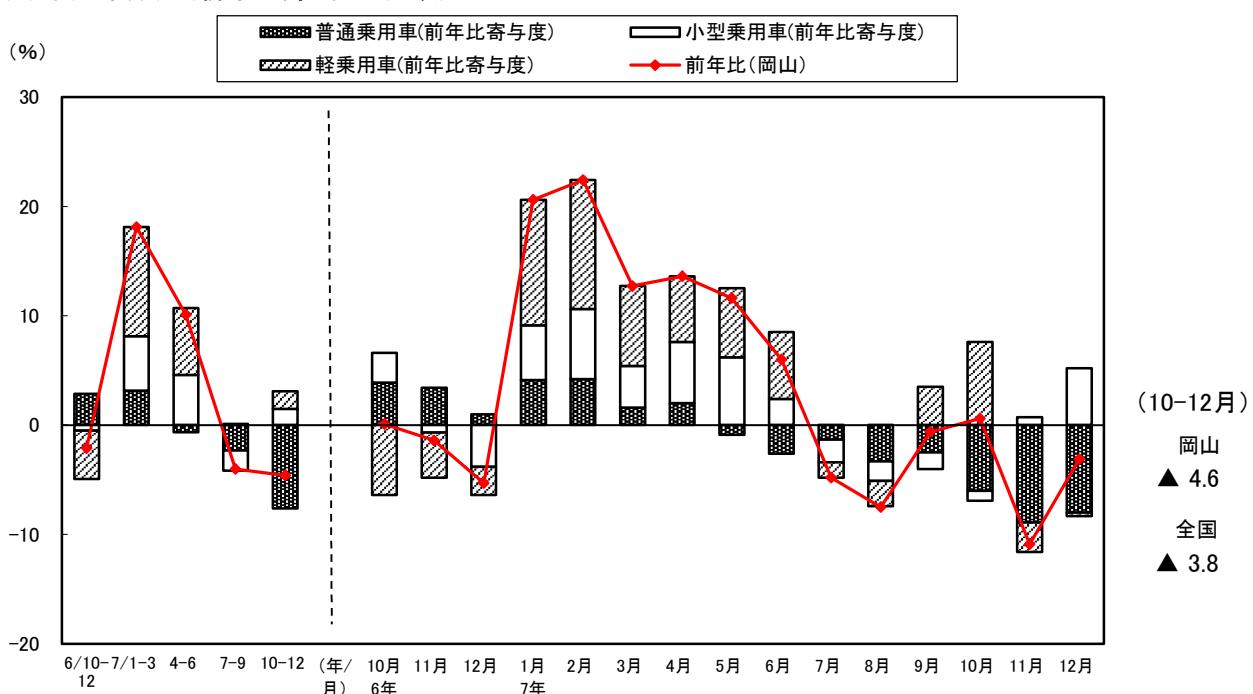


(資料出所:経済産業省、中国経済産業局)

(5) ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



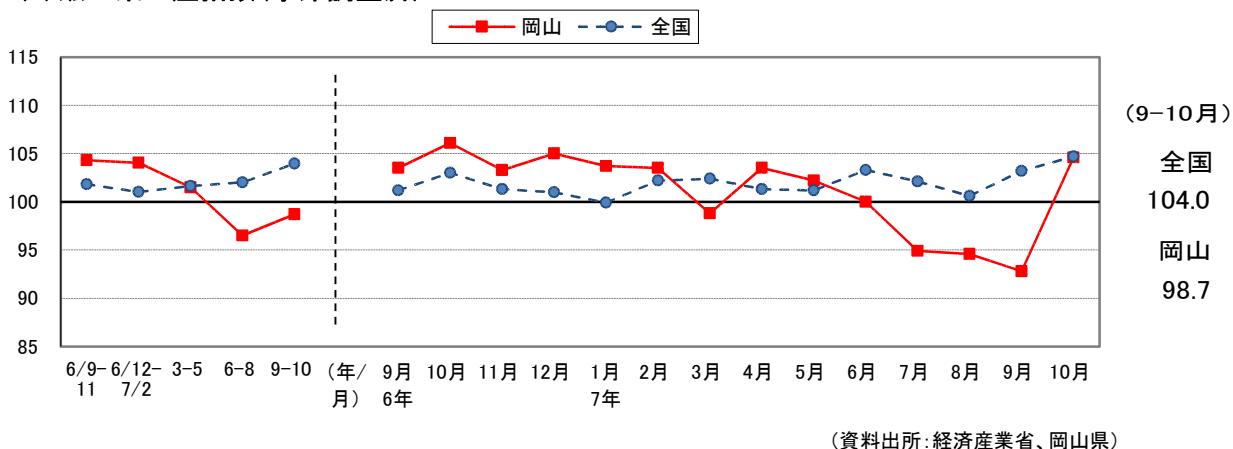
(6) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



2.生産活動 緩やかに持ち直しつつある

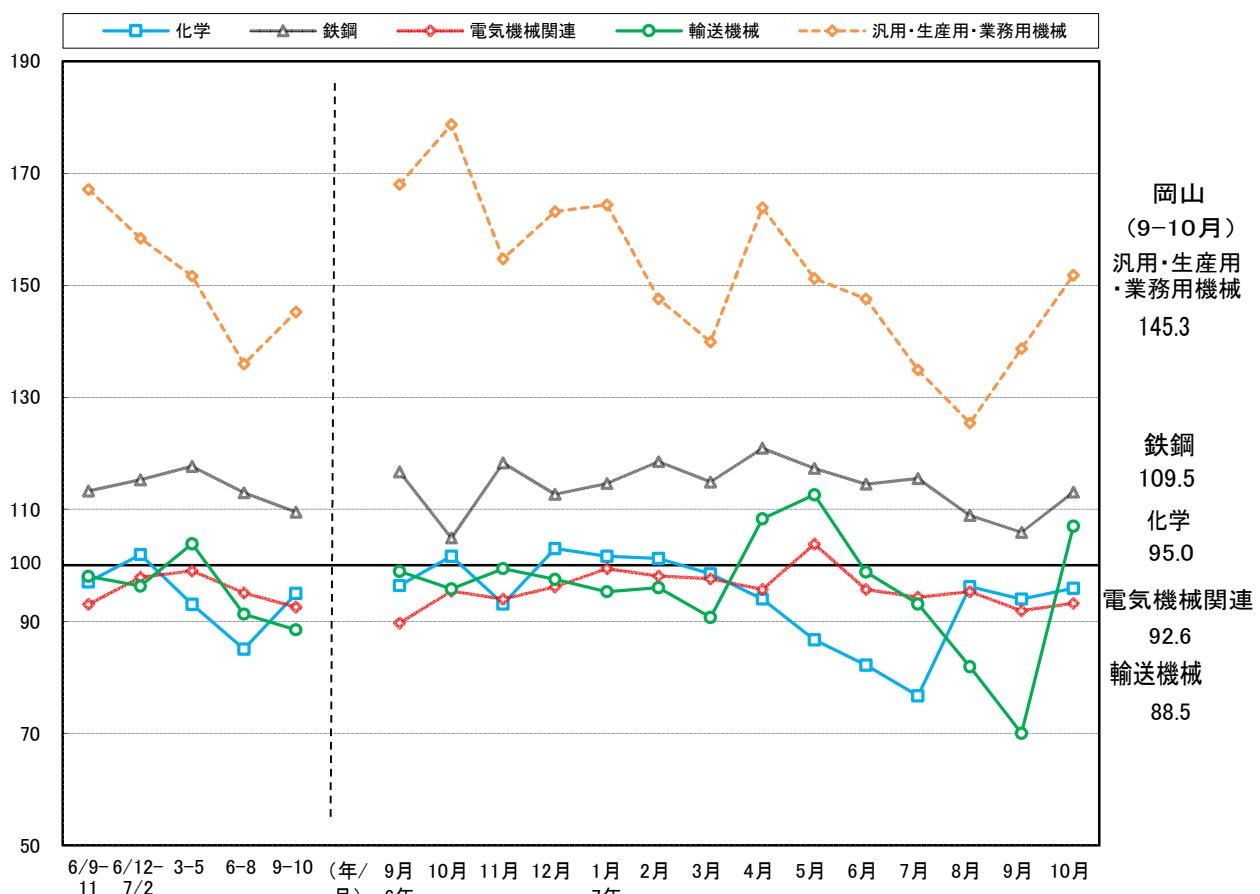
(1) 鉱工業生産指数(季節調整済)

(指標)(令和2年=100)



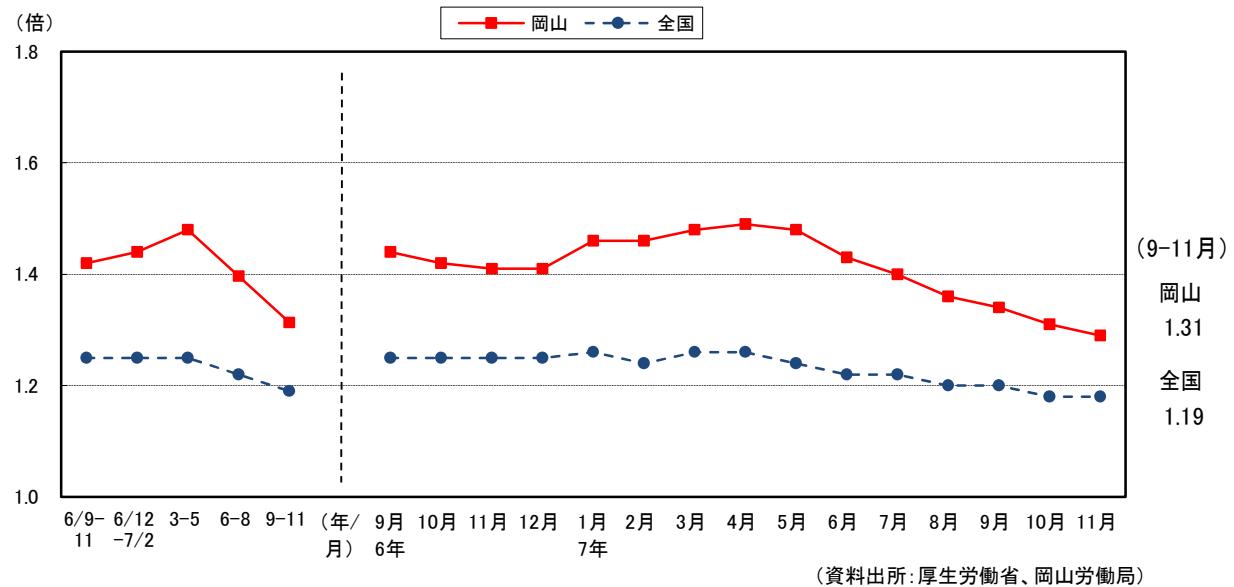
(2) 主要産業別生産指数(季節調整済)

(指標)(令和2年=100)

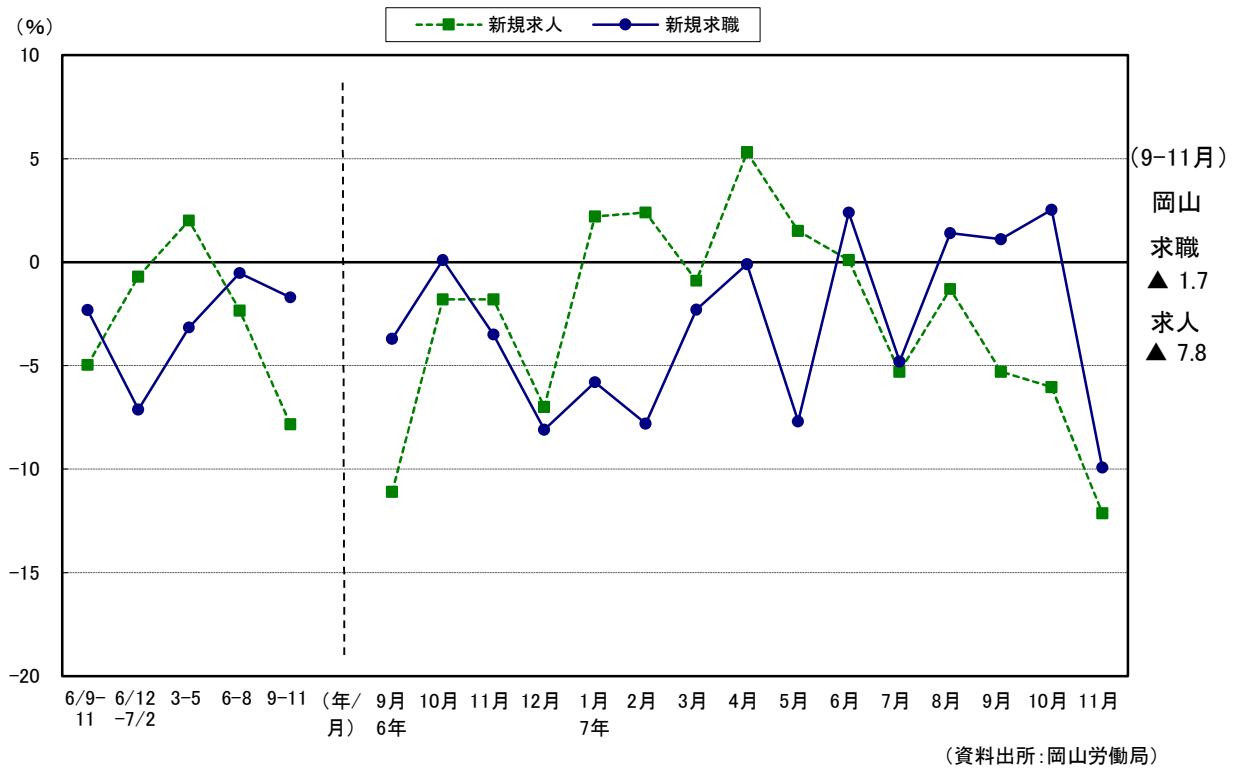


3.雇用情勢 改善に向けた動きに一服感がみられる

(1)有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2)新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数值)の前年比



4.設備投資(除く土地、含むソフトウェア投資)

7年度は前年度を上回る見込み

(前年度比増減率: %)

設備投資	全産業	製造業		非製造業	
		7年度	(23.0)	5.6	(18.0)
		▲ 6.4	(18.0)	(37.9)	33.6

(注)当所法人企業景気予測調査(7年10~12月期)結果

()書きは前回(7年7~9月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

5.企業収益(電気・ガス・水道業及び金融業・保険業を除く)

7年度は減益見込み

(前年度比増減率: %)

経常利益	全産業	製造業		非製造業	
		7年度	(▲48.7)	▲ 44.6	(▲60.7)
				▲ 59.2	(▲16.5)

(注)当所法人企業景気予測調査(7年10~12月期)結果

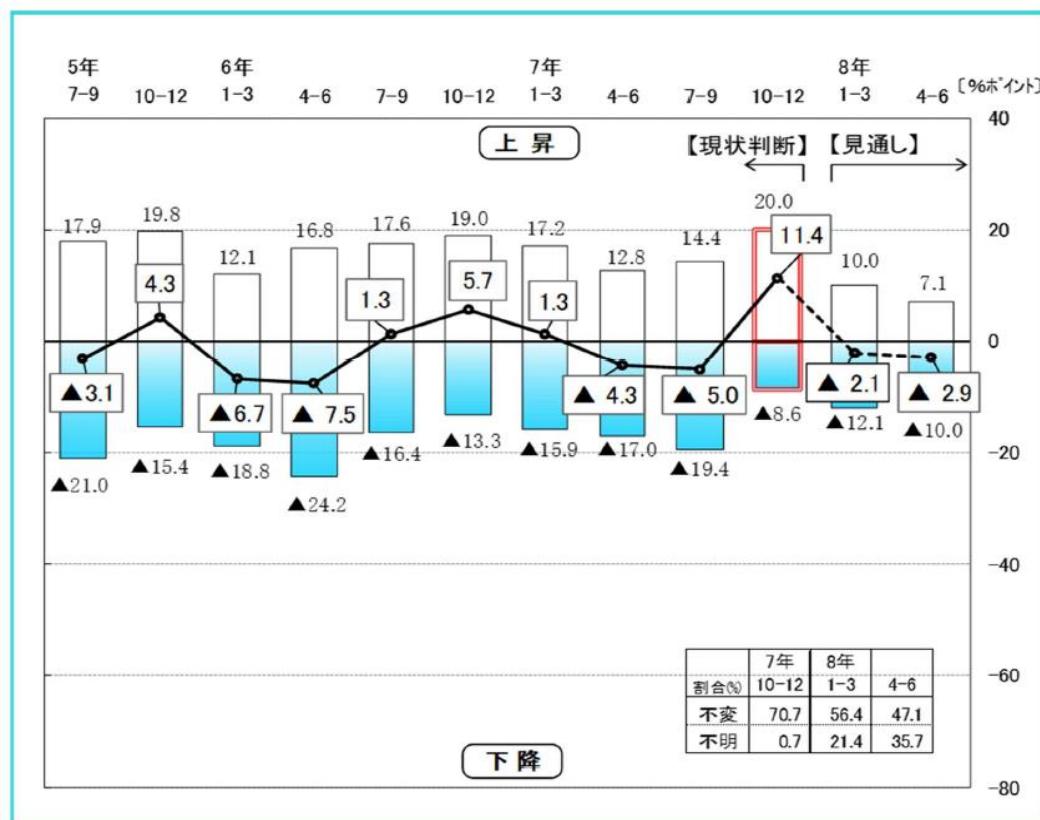
()書きは前回(7年7~9月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

6.企業の景況感

「上昇」超に転じている

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」「下降」社数構成比)

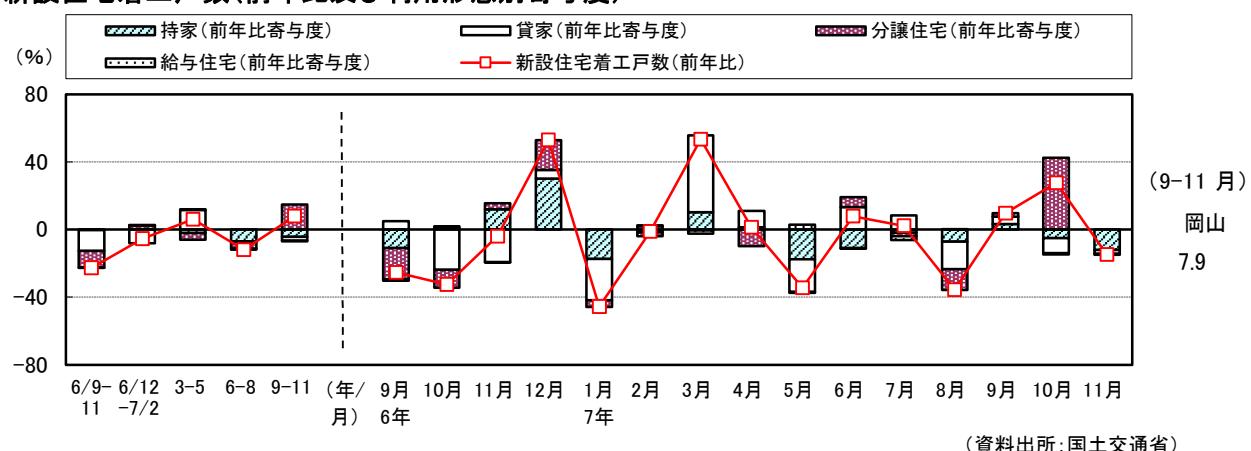


(注)当所法人企業景気予測調査(7年10~12月期)結果

(資料出所:岡山財務事務所)

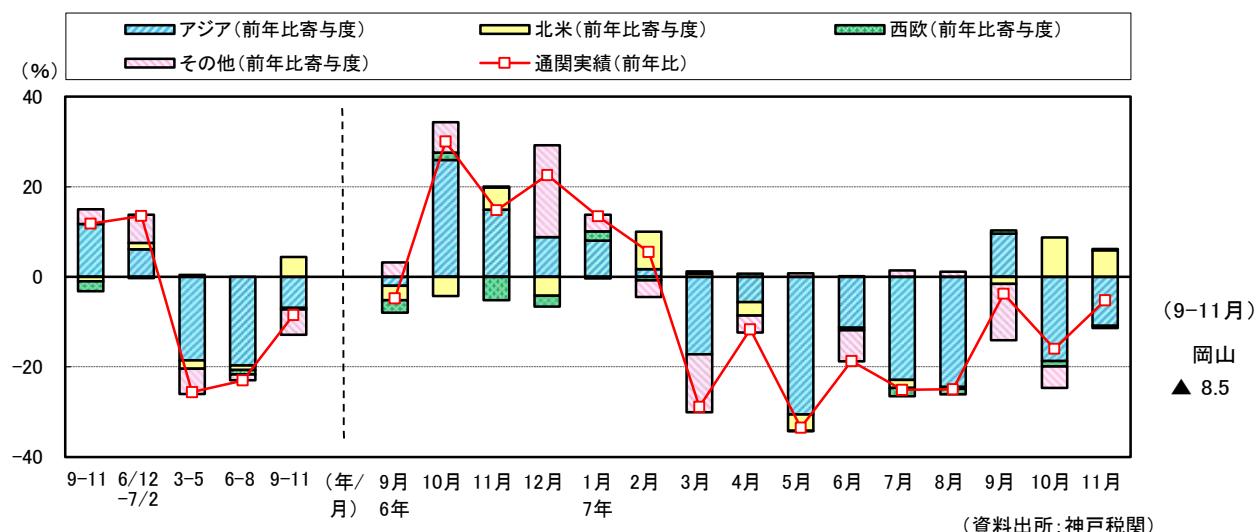
7. 住宅建設 前年を上回っている

新設住宅着工戸数(前年比及び利用形態別寄与度)



8. 輸出 前年を下回っている

輸出(円ベース)



<参考>

輸入(円ベース)

